

東北地方太平洋沖地震に係る下水道施設第一次調査(岐阜県第1班)支援活動報告

【支援概要】

(1) 支援先自治体及び状況

宮城県塩竈市

- ・下水処理場(仙塩浄化センター)が被災しており、稼働していない。
- ・塩竈市は震度6強。
- ・地震により家屋やブロック塀の倒壊はあるが、それよりも津波による被害が大きい。

(2) 支援人数

4名 岐阜県:1名(土木)

岐阜市:1名(土木)

大垣市:1名(土木)

関市:1名(水質)

(3) 支援期間

平成23年3月23日(水)～29日(火)(調査期間5日+往復2日=7日)

3月23日午前6時45分 岐阜県庁出発

// 午後6時10分 宮城県大崎市到着

3月24日午前9時00分 栗原市金成分庁舎で打合せ

// 午後12時00分 塩竈市役所で打合せ

// 午後1時00分 調査開始

~~~~~中略~~~~~

3月28日午後3時15分 作業終了、塩竈市へ引継完了

3月29日午前0時30分 塩竈市宿出発

// 午後3時15分 岐阜県庁到着

#### (4) 下水道管渠の状況

- ・マンホール内に汚水が滞水している箇所はあったが、マンホール自体は、ほとんど被害がなかった。

#### (5) 一次調査の活動状況

- ・塩竈市内の管渠(人孔)の一次調査を中部ブロック派遣の5班で行う。
- ・岐阜県第1班は塩竈市港町、海岸通、尾島町、中の島、舟入、新富町、旭町、南町、錦町内を調査した。
- ・マンホール付近の路面状況を確認し、2～3箇所に1回の割合で蓋を開閉して人孔内を
- ・マンホール内部の破損を確認するとともに、滞水状況を確認する。
- ・路面上からマンホール内部を目視で確認するのみであり、内部に入ることはなかった。

調査規模 : 管渠延長L=26km、人孔N=1050基

現地調査=25時間、データ整理=15時間

- ・資機材は、送風機等を一通り持って行ったが、一次調査で使用したのは、次のものだけである。

①スタッフ

②マンホール開閉器

③デジタルカメラ

④カラースプレー(赤、青(本当は白が望ましい))

⑤マイナスイライパー

⑥ハンマー

⑦ホワイトボード

⑧懐中電灯

#### (6) 支援活動を通しての感想

- ・毎日、余震が発生している。余震により被災地の方々は、かなりストレスがたまっていると思われる。
- ・現地で食事を調達することが困難であり、持参したもので対応した。
- ・食事がインスタントやレトルト食品になるため、体調を崩した派遣職員が4人とも3日目から下痢になったため、整腸剤や下痢止めがあった方が良かった。
- ・寒さ対策が必要である。
- ・カーナビが最新データでない可能性があるため、地図を持参した方が良い。
- ・緊急車両専用の給油所を確認しておいた方が良い。
- ・派遣前に一次調査の具体的な内容及び必要機材の説明がほしい。



(人孔深、滯水深測定)

（人孔内部の目視確認）



(人孔深、滯水深測定)

(人孔内部の目視確認)



(台帳平面図による調査箇所の確認)